

## ● 制作

# 耕す舞台、育つ文化\_横芝光町虫生地区における鬼来迎継承のためのランドスケープ提案\_

Cultivating Stages, Nurturing Culture—Landscape Proposals for the Preservation of the Kiraiigō Tradition in the Musyō District, Yokoshibahikari Town

三堀 響介 園芸学研究所 ランドスケープ学コース 環境造園デザイン学領域 (主指導教員: 章 俊華)  
MITSUBORI Kyosuke

### 1. 研究の背景と目的

本研究は、千葉県横芝光町虫生地区に伝承される国指定重要無形民俗文化財「鬼来迎」を対象に、継承の困難化を単に「担い手不足」として説明するのではなく、上演が成立する条件群を「舞台条件」として整理し、ランドスケープ分野から継承支援の方法論を提示することを目的とする。無形民俗文化は、所作や演目が固定的に保存されるのではなく、担い手の身体実践と共同性のもとで更新されながら継承されてきた。しかし人口減少・高齢化、生活様式の変化により、当日の出演者確保だけでなく、準備・学習・維持管理を含む運用の回路、関与の入口、役割移行の仕組みが同時に脆弱化しやすい。さらに地方部では空き家増加や農業維持の困難化、気象の不確実性などが重なり、文化活動を支える日常の条件(時間・労力・場)が縮減し得る。

そこで本研究は、鬼来迎の継承課題を「文化」の内部だけで完結させず、舞台条件(空間・運用・関与)の連関として捉え直す。とくに「閉鎖性/開放性」を価値判断として扱うのではなく、境界(秩序)を保ちながら関与の入口をどう設計できるか、という検証可能な問いへ転換する。

### 2. 研究対象と視点

鬼来迎は毎年8月16日に千葉県横芝光町虫生地地域の広済寺境内の仮設舞台上で上演される地獄劇であり、地域の保存会・住民により担われてきた。一方で、上演が年1回に集中する時間構造は、当日以外の準備・学習・手入れ・記録等の関与が可視化されにくく、入口が単線化しやすい。

本研究では舞台条件を三層に整理する。第一に空間的条件(配置、動線、見え方、滞留、安全性等)、第二に運用条件(準備段取り、役割配分、負担の集中、時間構造等)、第三に関与条件(入口、段階性、観覧の型と鑑賞点等)である。

ここでいう閉鎖性とは、儀礼秩序・作法・安全性等を支える境界が価値の中核となり、入口と役割移行が限定されやすい舞台構造を指す。開放性は境界の解体ではなく、境界価値を保持したまま入口を運用可能に設計し、段階的な役割移行(見物→手伝い→準備→運営→担い手)を成立させる状態として定義する。



図1: 鬼来迎写真

### 3. 研究の方法

方法は三つを接続する。

(1) 比較分析として、複数祭礼(登別地獄まつり、青森ねぶた祭、よさこい祭り、伊万里トンテントン祭り、祇園祭)を対象に、入口設計、境界管理、運用条件の厚みの観点から相対化を行った。

(2) 映像分析として、鬼来迎の上演映像(筆者撮影)を用い、観客反応を「盛り上がり」に回収せず、拍手・笑い等の可聴反応に加えて沈黙・注視・観客行動(撮影、投げ銭等)を整理し、出現局面を記述的に確定した。

(3) 既往研究レビューとして、農業の衰退と文化継承困難化を単線的因果で断定せず、共同活動、労働・時間資源、参加の入口、正統性・境界運用といった媒介条件として整理し、舞台条件との接続可能性を検討した。

### 4. 結果

#### ○4-1. 比較分析

比較の結果、祭礼の差異は「外部参加が多い/少ない」や規模の大小だけでは説明できず、①入口の明示と段階性、②観客から参加者への役割移行の回路、③境界(規律・作法・安全)のマネジメント、④準備・維持・伝承を支える運用条件の厚みで特徴づけられた。すなわち、理念としての開放ではなく、誰がどの条件でどの役割へ入れるのかが具体化され、

表1: 比較分析の結果表						
祭礼名	住民参加度	観客参加度	規模・対外的可視性	開放性	継承の仕組み	参考資料
鬼来迎	地域住民が観客を招くが人数は多数参加に限定。観客が参加するところがあるが、基本的に観客参加は少ない。	観客が参加するところがあるが、基本的に観客参加は少ない。	観客が参加するところがあるが、基本的に観客参加は少ない。	外部参加は受け入れられない。	保存会はあるが担い手の高齢化が深刻で継承者不足。	文化遺産オンライン (1979年国指定)、横芝光町教育委員会資料、広済寺行事案内
登別地獄まつり	観客参加が中心で、全住民参加型ではない。	観客も一部プログラムに参加可能(地獄の鬼行列など)がある。	観客参加が中心で、全住民参加型ではない。	観客参加が中心で、全住民参加型ではない。	保存会や担い手育成は限定的で観客参加がポート。	登別観光協会資料、登別市観光レポート
青森ねぶた祭	地域団体・企業単位で参加が組織化される。	「観客」として誰でも参加可能(祝祭の場のみで参加可能)。	国内外から観客が参加するところがあるが、基本的に観客参加は少ない。	外部参加を制度的に認めている。	保存会・学校教育・行政実証が整備されている。	青森ねぶた祭り公認、ねぶた祭り団体保存会、ねぶた祭り(2022)
よさこい祭	観客がチームに参加できる仕組みがあり、広域から参加可能。	観客がチームに参加できる仕組みがあり、広域から参加可能。	全国的規模の知名度と参加者数を持つ。	団体・団体チームを積極的に受け入れ。	保存会・祭り振興会が担い手確保を推進。	よさこい協議会公式HP、参加申込要項、地域文化学会報告
伊万里トンテントン	青年団を中心に地域住民が参加している。	観客は見物のみ、一部地域外からの観客も一定数参加する。	観客は見物のみ、一部地域外からの観客も一定数参加する。	外部参加は基本的にない。	地域団体を中心とした担い手育成の取り組みあり。	伊万里市公式サイト、祭礼保存会資料、地元新聞記事
祇園祭	町衆組織が基盤であり、地域全体で参加する。	観客は完全な受動的観客であり、地域全体で参加する。	全国的規模の知名度と参加者数を持つ。	観客参加は少ないが、祭りの三日月一体で観客参加も一部ある。	町衆組織・保存会・行政の三日月一体で担い手育成を推進。	祇園祭山鉾連合会資料、京都府文化財保護課報告(2021)



## 7. 全体設計方針

本研究の設計提案は、虫生地域の「10年後に想定される状態」を設計対象として設定し、当日の上演と日常の基盤管理が同じ空間資源の上で切り替わる条件を整えることを目指す。継承の困難化を担い手不足や制度の一般論へ還元するのではなく、上演が成立する諸条件を舞台条件（空間・運用・関与）の連関として捉え直し、秩序を保持しつつ、関与の入口がどこで狭まり、どの条件によって固定化しているのかを検討可能な問いへ変換する。

10年スケールの前提としては、気候の厳しさの増大（暑熱・短時間強雨等）や、維持管理の空洞化、担い手・時間資源の不足が同時に進行し得ることを想定し、作業の成立条件（安全、滞留、休憩、水処理、保管、動線）を空間資源として整える方針をとる。ここでいう空間資源は施設整備の有無に還元されず、手入れ・学習・準備・記録・交流といった行為を受け止め、役割移行を段階化するための条件（配置、動線、滞留、見え方、保管、安全等）の束として位置づける。

文化の継承と農業の再興を「どちらのための場か」と二分するのではなく、普段は基盤管理や学習・準備の場として機能し、当日には舞台として立ち上がる「二重の場所」を創出することが、本提案の中心概念である。



図2: 農業課題ダイアグラム

## 8. 回遊式舞台と観客動線

本提案では、地域課題の解決に資する日常の場が、鬼来迎当日のみ舞台へと変化する切替を設計の中核に据える。広濟寺を起点とした回遊式の舞台構造により、各エリアの舞台を巡って観覧する体験型ルートをつくる一方、遠巻きに見る一般観覧ルートも確保し、複数の観覧選択肢を成立させる。

観客動線は、秩序・作法・安全性を支える境界を維持しながら、観客域・運営補助動線・作業域が交差しない構成を基本とする。

また、入口は「担い手になる入口」だけではなく、受容（見物）→補助的関与（記録・清掃・設営補助等）→準備・運営→担い手、のように段階化し、各段階に「越境しない範囲で許容できる役割」を設定する。これにより、当日の経験が日常の手入れ・準備・記録へ接続し得る入口として機能し、10年スケールで関与が継続・深化しうる条件を整える。

## 9. 管理の担い手（鬼組ネットワーク）と運用設計

年1回に集約される時間構造のもとでは、当日以外の準備・学習・手入れ・記録が可視化されにくく、関与の入口が単線化しやすい。そこで本提案では、当日運営に依存しない継続的な関与を成立させる担い手の連結構造として「鬼組ネットワーク」を構想する。ここで重要なのは、参加を単に増やすことではなく、秩序と安全を損なわない範囲で関与の深度を調整し、段階的な役割移行が生じる回路を運用可能な形で用意する点である。

鬼組ネットワークの運用は、役割の定義、頻度、責任の所在を明確化し、入口の段階化が担い手の負担増としてのみ作用しないように構造化する。年間の運用は「整える（基盤管理）」「仕込む（学習・準備）」「当日（運営・安全）」「戻す（片付け・記録・振り返り）」の四期として整理し、当日に集中する負担を平時の小さな作業単位へ分散させることで、10年スケールでの継承可能性を支える運用の厚みを確保する。

## 10. エリア1「大序」：畦が拡張される仕組みと、土の循環

エリア1では、耕作放棄地の増加と、高齢化を理由とした離農の際に生まれる大規模な農地を分割することを背景に、「土の循環で線を育む」計画として、畦が徐々に伸びていき、新たな農地の境界を創り出す構造を提案する。畦は粘土質の踏み固め畦と、鬼来迎後に崩して田へ戻す腐葉土質の畦を併置し、長期的利用を見据えた動線としての畦と、還元される畦を使い分ける。さらに、ドブさらい等上がった土を単に廃棄するのではなく循環の基点として再編し、採取→乾燥→仕分け→再投入→還元工程として明示することで、分担と引き継ぎが可能な運用単位へ落とし込む。これにより、日常の基盤管理が当日以外の入口として可視化され、10年後の担い手・時間資源の不足下でも回る管理の形式を確保する。

## 11. エリア2「死出の山」：間伐による道筋と生物循環

エリア2では、シイ・カシ二次林を含む林地において、間伐によって生まれるギャップと林床更新を前提に、生物循環の基点を設計対象化する。間伐は単なる景観操作ではなく、当日の回遊と日常の手入れを重ねる道筋をつくる行為として位置づけ、見え隠れする道や視点場の形成によって、空間的条件（動線・見通し・滞留）と運用条件（手入れの頻度・学習・準備）を接続する。これにより、10年後に増大し得る管理負担を、林縁更新と作業回路として引き受ける枠組みを与える。

## 12. エリア3「糞の河原」：排水回復と所作としての投入

エリア3では、短時間強雨の増加見通しを前提に、山裾に平行する浅い排水線と割栗の透水帯で山から田への回路をつなぎ直す。排水は単なる設備ではなく、毎年更新される運用として位置づけ、観客は本番に石を一つ投げ込み、詰まり部に新しい空隙を補給する所作を組み込む。これにより、滞水の縮小や浸透の改善が期待される条件を、境界を壊さない限

定的入口として成立させ、排水回復を関与の回路の一部として扱う。

### 13. 小結

以上の設計提案は、儀礼の秩序・作法・安全性を支える境界を価値として保持したまま、関与の入口と運用の回路を編み直すことで、文化実践が再び「成立し続ける状態」をつくる、という文化の再生を目的とする。ここでいう再生とは、外部化や単純な開放によって参加者数を増やすことではなく、日常の手入れ・学習・準備・記録と当日の上演が相互に支え合い、担い手が段階的に育ち得る条件を、場所と運用の両面で整えることである。

エリア 1 では畦の拡張と土の循環によって日常の基盤管理を可視化し、エリア 2 では間伐を通じて道筋と生物循環の回路を形成し、エリア 3 では最小介入の排水回復を所作として組み込むことで、日常の行為が当日の成立条件へ接続する回路を具体化した。したがって本提案の到達点は、当日の舞台を成立させるだけでなく、日常の積み重ねが当日へ、当日の経験が次の準備へと戻る「二重の場所」を成立させ、文化実践の継続を空間資源として支える点にある。

### ○引用文献

- ・横芝光町公式ホームページ
- ・総務省統計局 (2024) 「令和 5 年住宅・土地統計調査 住宅数概数集計 (速報集計) 結果」
- ・気象庁「大雨や猛暑日などのこれまでの変化」
- ・文化庁 (2021) 「文化審議会 企画調査会報告書 ～無形文化財及び無形の民俗文化財の登録制度の創設に向けて～」
- ・文化遺産オンライン (文化遺産データベース) 「鬼来迎 (重要無形民俗文化財)」
- ・千葉県教育委員会
- ・農林水産省「わがマチ・わがムラ：千葉県横芝光町」まちむら (統計情報)
- ・篠永信一郎・松村暢彦・片岡由香 (2020) 「祭礼活動の関与度と地域コミュニティに関する意識の関連性—愛媛県四国中央市伊予三島地区を対象として—」『都市計画論文集』55 (3), 1047-1052.
- ・Hommerich, C. (2015). Feeling disconnected: Exploring the relationship between different forms of social capital and civic engagement in Japan. *Voluntas: International Journal of Voluntary and Nonprofit Organizations*, 26 (1), 45-68.
- ・登別地獄まつり：一般社団法人 登別国際観光コンベンション協会 (登別地獄まつり)
- ・青森ねぶた祭：公益社団法人 青森観光コンベンション協会 (青森ねぶた祭 オフィシャルサイト)

- ・よさこい祭り：高知よさこい祭振興会 (よさこい祭り公式サイト)
- ・伊万里トンテントン祭り：伊万里神社御神幸祭実行委員会 (伊万里トンテントン公式サイト)
- ・祇園祭：公益財団法人 祇園祭山鉾連合会 (祇園祭公式サイト)

(主査：霜田 亮祐，副主査：章 俊華，木下 剛)

